

聴解授業のためのニュース番組の分析

——リード文と本文の関係及び文末表現の特徴——

Analysis of TV News for a Listening Class :

The Relationship of between the Summary and the Text and
the Features of the Sentence End Expressions in News Report

Takako Kawano
河野多佳子

要 旨

中上級の日本語学習者にとって聞き取れるようになりたいという目標の一つがニュースである。しかし実際に放送されているニュースには未習語が多く、聞き取ることが難しいと感じている学習者も多い。そこで聴解クラスでテレビニュースを聞き取りの教材として扱うために、その構成や文末表現の特徴を分析した。その結果、ニュースはリード文と本文という二つの構成に分けられ、その内容は重複しており、リード文で使われた語彙や表現がニュース全体の理解のために非常に重要であることがわかった。この知見を活用することで学習者が未習語を類推できる可能性を探った。また、ニュース報道文には文末表現に特徴があり、単語の共起関係や使用頻度に傾向が見られた。これらの特徴を事前に学習者に説明しておくことで、ニュースを聞き取る際の助けになることが考えられる。本研究ではこれらの特徴を踏まえ、中上級の学習者が聴解授業で使用するための教材の作成を試み、どのような手立てがニュース聴解のために必要であるかを考察した。

キーワード：聴解 ニュース報道文 リード文 未習語 文末表現

1. はじめに

日本語学習者は4技能を習得すべく日本語学習に励んでいるが、「聞く」という能

力を測る一つ的手段としてニュース番組を聴くことができるという指標が用いられる。これは筆者が実際に、中上級の学習者に聴解に関してどのようなことができるようになりたいかというニーズ調査をした際、いちばん多かった答えであったことから裏付けられる。しかしニュースの聞き取りに関しては不安な点も多く、特に語彙の多さやニュースで用いられる表現は学習者のニュースの聞き取りの際の高い壁となるようである。聴解クラスでニュースを扱う際は、事前に単語リストが配布されることが多いが、筆者が担当した聴解クラスで「実際の場面では事前にリストを渡されることは少ないので、自分で音声を聞き取れるようになるために、事前に単語リストは配布しないでほしい」との学習者の要望があった。そこで本研究の対象クラスでは単語リストを配布しないことにし、実際に放送されている順番でニュースを聞くことにした。未習語が多数混在するニュース番組を生教材として使用した聴解教材を作成するためにはどのような手立てが必要かを考察するため、実際に放送されたニュース番組の構成や特徴を分析した。

2. ニュース報道文の分析

ニュース報道文の特徴を分析するため、NHK 総合テレビで放送されている「NHK ニュース7」を2018年10月29日から11月4日までの1週間分を全て文字化した。この番組はニュースだけをアナウンサーの音声のみで伝えるいわゆるストレートニュース¹とは異なり、30分の間に主要ニュースを3~4項目と要点だけをまとめた短いニュースを3項目ほど、その後スポーツや気象情報などを織り交ぜて構成されているニュースショーと呼ばれる報道番組である。このようなニュースを主体とした報道番組は民放各局で毎日放送されており、それらの演出方法は各番組によってさまざまな形態が見られる。

2.1 ニュースの構成

ニュース報道文の特徴の一つは、一つのニュースを伝える際の構成である。金庭(2011:3)は「リード文+背景+詳細+展望・付加」という構成であると述べており、星野(2011:234)は「リード+詳細+補足」という構成でアナウンサーがニュースを読み上げると説明している。本稿ではストレートニュースよりも本文が長い報道番組を対象としたため、本文を時系列によって詳しく分けた金庭(2011:3)の

分類を参照する。金庭はリードの後にニュースがどこで何が起きたかを説明する「背景」（リード文より過去に当たる）とそれについてより詳しい情報「詳細」に分けている。NHK ニュース7」1872 文を分析した結果、ニュースの内容によってさまざまな演出方法が見られ、決して画一的な進行ではないことがわかった。今回分析の対象とした番組を見てみると、以下のような構成が見られた。

- ①リード文＋背景＋詳細＋展望・付加
- ②リード文＋背景＋詳細＋展望・付加＋(別のニュースの) 背景＋展望・付加
- ③リード文？（話題の提示）＋背景＋詳細＋展望・付加
- ④背景＋詳細＋展望・付加

リード文という言葉はマスメディアで使われることの多い言葉で、一般の視聴者にとっては馴染みのないものであるが、井上（2019:245）は「ニュースの冒頭にあり、多くの場合当該ニュースの要旨を示す」としており、星野（2011:234）も同様に「以下に扱うニュース内容を端的に言い表したものである」と説明している。30 分の放送時間のうち、冒頭で紹介されるその日の重要なニュースについては、①の構成でリード文が必ず読まれていた。各日 5～8 項目のニュースが伝えられており、1 週間の合計が 43 項目、リード文の数は平均すると 3.06 文であった。これはストレートニュースで用いられる汎用原稿の分析を行った井上（2019:266）が述べているようにリード文は大半が 1 文であるというデータとは異なる。報道番組においては、ニュースそのものの長さもストレートニュース全文の平均が 4.6 文であるという井上（2019:266）のデータと比較すると長く、これはニュースショーがリード文もストレートニュースより詳しく編集、改変され伝えられているためであると考えられる。今回分析したニュースの中では①が最も多く見られ、全 43 項目のうちの 83% に当たる 36 項目が①の構成であった。

リード文の後は、現場の映像が映され、それについての説明が行われてから、どこで何が起きたかという背景について詳しく説明され、例 1 のように事故のニュースであった場合はその詳細な情報、過去の事故や調査の結果など、現時点で判明していることが紹介された。

例1 ①のリード文+詳細+背景+展望・付加のニュース

リード	アナウンサー A (以下 A)	インドネシアで旅客機が墜落しました。
	A	乗っていたのは子どもを含む 189 人。
	アナウンサー B (以下 B)	現地では懸命な捜索活動が行われています。
詳細 1	A	インドネシアの首都、ジャカルタ郊外の空港です。
	A	乗客の家族でしょうか、厳しい表情で張り出された乗客名簿を確認していました。
	乗客の家族	「私の父はまだ捜索中だと聞いた」(字幕)
	A	墜落した、現場付近の映像です。
	A	海に油のようなものが浮かんでいます。
	A	機体の一部でしょうか、マークの描かれた部品や、乗客の持ち物でしょうか、破れた黒いカバンなども見つかりました。
背景	A	墜落したのはインドネシアの LCC 格安航空会社 ライオンエアのボーイング 737 型、JT 610 便です。
	A	日本時間の午前 8 時過ぎ、ジャカルタ近郊の空港を離れ、北部のバンカ島にあるパンカルピナに向かっていました。
	A	旅客機は離陸からおよそ 10 分後には高度 1600 m に達していました。
	A	しかし、その後急速に下降。
	A	ジャワ海の上空でデータが途切れていました。
詳細 2	A	ジャカルタの日本大使館によりますと、これまでに日本人が搭乗していたという情報はないということです。
詳細 3	A	2000 年に運航を開始したというライオンエア。
	A	過去にも事故が起きています
	A	2004 年には旅客機が滑走路をオーバーランし、少なくとも 27 人が死亡、2013 年には着陸に失敗し、およそ 40 人がけがをしました。

付加	A	今回事故を起こした機体について、ライオンエアは
	ライオンエア CEO	「技術的問題が見つかったが、所定の手順に従って解決した」(字幕)
	A	こう述べて、事故の直前に何らかの不具合が見つかり、修理していたことを明らかにしました。

2.1.1 単語の重複と関連語彙

リード部分で使われている単語はその後のニュースの中でも繰り返し使われており、関連した単語も多い。井上 (2019) はテレビニュースのリード文の述部が、ニュース本文の中でも繰り返されているということからニュースの談話構造に反復が現れると述べている。ラジオ、テレビ、ネットでそのまま使われる「汎用原稿」を対象にした井上の調査によると 88% がニュースの本文に反復があり、これが典型的な形であると述べている。これは、リード文を含めて 5~6 文 (井上 2019: 260) のニュースという談話の中に、類義表現が複数回現れることを意味し、形式が全く同じか似ているものであることから反復がより明示的なものであるとしている。また井上はリード文述部の反復は、リード文を表現する映像と呼応関係にあり、ニュース談話の反復は、付随する映像やテレビ演出そのものと関係があると述べており (井上 2019: 267)、繰り返されることはテレビニュースならではの特徴であると言える。以下がリード文と本文を比較したものであるが、使われている単語が重複している。

資料1 リード文で使われた単語の本文における重複

(リード)

M: 信じられない事態です。

M: パイロットの 1 **飲酒** が 2 **発覚**。

M: 3 **離陸** の直前に 4 **逮捕** されました。

F: 日本航空の 5 **国際線** のパイロットがロンドンで 6 **乗務** する前日に大量の酒を飲み、出発前に 7 **現地** の警察の 8 **検査** で、9 **基準** を超えるアルコールが 10 **検出** されたとして逮捕されたことがわかりました。

(本文)

日本航空：申し訳ございませんでした。

M：問題が起きたのは日本時間の先月 29 日。

M：⑦ロンドン発羽田行きの、日本航空の⑤旅客機に 6-1 [乗務]する予定だった 42 歳の男性⑤副操縦士が、1-1 [飲酒]の②疑いがあるとして、出発の前、7-1 [現地]の警察から①アルコールの 8-1 [検査]を受けました。

M：①呼気からは、イギリスの④法令で定める 9-1 [基準]の 10 倍以上、1 リットル当たり 0.93 ミリグラムのアルコールが 10-1 [検出]されたということで、副操縦士は 4-1 [逮捕]されました。

M：このため、3 人のパイロットで 6-2 [乗務]する予定だった⑤便を、残りの 2 人で⑥運航することになり、3 (出発)がおよそ 1 時間遅れました。

M：副操縦士は会社の調査に対し、6-3 [乗務]の前日の夜に、飲食店やホテルの部屋で、1 人でワインを 1.5 リットル以上、ビールを 1.8 リットル以上飲んだと話しているということです。

M：6-4 [乗務]前のアルコール 10-2 [検査]は出発の 10-3 [検査]の前に会社内でも行われていましたが、②反応は確認されませんでした。

M：その後旅客機まで移動するバスの車内で、運転手が酒の匂いに気づき、1-2 [飲酒]が 2-1 [発覚]したということです。

日本航空社員 2：正しく 10-4 [検査]をしたかという問いに対して、その点については申し訳ありませんでした、と。

社員 3：正しく⑧測らなかつたことは間違いないと。

社員 3：正しいやり方で測れば、きちっと⑩感知しますので、そこは正しいやり方ではなかつた、ことは間違いないと思っています。

M：日本航空は副操縦士が 10-5 [検査]で④不正をしていた可能性が高いと見ていて、10-6 [検査]方法を見直す考えです。

M：日本の航空会社では、昨日も全日空グループの⑤機長が 6-5 [乗務]前に⑨既定の時刻を過ぎて 1-3 [飲酒]していたことが明らかになっていて、運航の安全に対する意識が問われています。

このことからリード文で使われた単語はそのニュース全体にとって重要なものと思われる。そこで、ニュースの冒頭で話されるリード文で使われる単語を把握しておくことで、本文で伝えられる内容の予測ができるとともに、未習語の意味を推測するのにも役立つと考えられる。

資料1ではリード文と本文に重複が見られるもので、本文の理解のために必要であると思われるものを10個選んだ。本文に出てくる語彙の類推に役立てるのが目的であるため必ずしも未習語である必要はないが、ニュースの概要を説明するのに不可欠であるものを優先的に抽出している。

- ①飲酒→アルコール、呼気
- ②発覚→疑いがある、反応が確認される
- ③離陸→（出発）
- ④逮捕→不正をする
- ⑤国際線→便、旅客機、副操縦士、機長
- ⑥乗務→運航する
- ⑦現地→（ロンドン）
- ⑧検査→（測る）
- ⑨基準→規定
- ⑩検出→感知する

①の「飲酒」という単語は外来語のアルコールが容易に推測できるが、「呼気」はアルコール検査の様子を想像しなければならない。リード文で「飲酒で逮捕された」と理解しておけば、検査に必要な「呼気」を導き出すヒントとなり得る。④の「逮捕」も警察が関わることと考えれば「不正」という単語を予測することができる。⑤「国際線」と⑥「乗務」は専門用語であるため手助けが必要であるが、航空関係であることを意識すると誰がかかわっているかを予想しやすい。⑨「基準」と「規定」は単語の発音が似ているため混乱が生じやすいので漢字とその意味への配慮が必要である。⑩の「検出する」は「（アルコールが）感知する」という語と類似表現であるが、「感知する」は検査をした結果アルコール分が規定値以上を指したことを示していると考えられ、ただアルコール分が存在したという「検出」以上に細かい情報を伝えていることを学習者に示す必要がある。⑦「現地」は類義語がないが、事件がロンドンで起きたことを理解するためには不可欠な情報である。③「離陸」は「出発」、⑧「検査」は「測る」という初級レベルの単語が類義語に相当するが、事件の時系列を把握するために必要である。

以上のようにリード文と本文には単語の重複が見られ、また互いに関係する語彙も多く使われている。日本語学習者にとって聞き取りの際の未習語の推測に役立てられ

る構成になっており、そのパターンを事前に指導しておけば教材として十分に活用できると考えられる。

2.2 ニュースでよく使われる文末表現

2018年10月29日から11月4日の1週間にNHKで放送された「ニュース7」を文字化した全1872文から、よく使われている文末表現を抽出した。最も多くみられた文末表現は「インドネシアで旅客機が墜落しました」「阿部総理大臣の所信表明演説に対する、各党の代表質問が始まりました」など過去に起きたことを述べる文末表現で321文に見られた。これはニュースが実際に過去にことを述べる性質であることからこの結果は当然であろう。

次に多く見られたのは現在起きていることを示す文末表現で「ています」で、今後も動向が予測されることや状況が変化している事柄に使われている。

例文 1-1

政府は景気の落ち込みを防ぐために、様々な対策を講じる方針で、内容の検討を進めています。

例文 1-2

パスワードや暗証番号と比べて、偽造やなりすましが難しいことから普及が進んでいます。

2.2.1 受身文 報道文では「～られました／られています」の非情の受身文を多く使うことで、ニュースの内容が記者やアナウンサーの主観では伝えられないことがうかがえる。その理由をメイナード（2005:251）は「メタ言語表現の受身とは、発想態度を表現するメタ言語表現として使われる受身文である」とし、「書き手は自分に言及しないままで、その思考内容や発話態度を前景化することができる」メイナード（2005:251）と述べており、新聞記事を例にして「新聞記者は『私がこう思う』または『誰かがそう思う』と表現せず、結果としてそのような内容が『みられる』もしくは『予想される』などと提示する」メイナード（2005:252）としている。

つまり、結果を描写する際には受身文を使ったほうが、「行為の結果発生する事態を行為者ではなく、結果の状態として描写するという基本的な発想態度を伝える」メイナード（2005：252）ことができると説明している。同じ報道文という立場上、テレビニュースも同様であると考えられる。以下はニュースの中で使われていた受身文の例である。

例文 2-1

旧優生保護法の下で、強制的に不妊手術が行われた人々を救済する基本方針が取りまとめられました。

例文 2-2

現在就労目的の在留資格は大学教授などの高度な人材に限られています。

2.2.2 引用表現

「としています」という文末表現では、一定の距離をおいて公的機関等の出した結論などの事実を述べている。例文 3-1 に示す通り情報源が同じ文の中か前文に明示されている。文字化した資料の中では 15 例が見られたが、そのうち政府関係機関が 11 例と最も多く、他は企業が取り決めたことや新しいサービスについて説明されていた。

例文 3

運用する内閣府は、利用のすそ野を広げることに力を入れたいとしています。

同じく伝聞の「ということです」も 39 例使われており、9 例は例文 4-1 で見られるように「によりますと」と共起して、インタビューや公式の発表によって判明したことを述べている。一方で、例文 4-2 のように取材などで明らかになった情報である場合もあり、この時は情報元が明示されない。これは上述の過去に起きたこととして明白に述べているものとは区別され、信憑度が低い印象がある。これらの情報はさまざまな情報元とともに使われており「としています」よりニュースでの出現率が高い

と言える。

例文 4-1

法務省によりますと介護業や、建設業、農業、漁業、外食業など 14 の業種が外国人の受け入れを要望しているということです。

執刀した獣医師によりますと、クマの白内障の手術の成功は世界的に見てもこれまで報告例がないということです。

例文 4-2

この事故で二機とも一部が損傷しましたが、そのまま飛行し午後 4 時半ごろまでに築城基地に着陸したということです。

事故機は一人乗りの機体で、これまでのところパイロットにけがはなく、部品などが地上に落下したという連絡も入っていないということです。

事故が起きた場所は築城基地からおよそ 200 キロの九州西方に設けられた訓練用の空域で、基地に戻る前に双方の機体の情報を確認しあうために近づいたところ、接触したということです。

「示しました」や「述べました」のような、引用も多く見られた。「示しました」については、今回の調査対象では 12 例が見られたが、そのうち 5 例が「考えを示しました」という組み合わせであった。他には「判断」「意向」「方針」「認識」とともに使われており、いずれも「考え」と類似した語彙と共起することが明らかになった。

例文 5

玉城知事はこのように述べ、国と地方の争いを調停する国地方係争処理委員会に審査を申し出ることを検討する考えを示しました。

「述べました」については、「安倍総理大臣は次のように述べました。」のように、8 例中 6 例が同じ文に「○○は」という、話し手が明示されている。あとの 2 例は前文、またはその前の文に話し手が誰であるかを示している。「述べました」は 8 例見られたが、そのうち首相が 3 例、大臣が 2 例、アメリカの政府関係者が 1 例と、多くが公人の発言で使われており、そのほかは裁判での被告の陳述が 1 例、記者会見での

事件にかかわった当事者の発言が1例ずつ見られた。

例文 6

M：また、山下法務大臣は外国人材の受け入れ拡大に向けた法律の改正案をめぐり、受け入れ人数について次のように述べました。

「明らかにしました」は6例見られたが、そのうちの2例は「考えを明らかにしました」と使われており、1例は「方針を」と共起していた。他の3例は引用文となっていて、以下はその一例である。

例文 7

沖縄県が埋め立ての承認を撤回したことについて、石井国土交通大臣は撤回の効力を一時的に停止することを明らかにしました。

ニュースで使われる引用の文末表現は定型句が見られ、これらを意識しておく、学習者が引用文であることを認識しやすくなると考えられる。

2.2.3 事情・経緯を表す表現

「のです」は15例見られたが、その中で事情、経緯を表す文末表現として9例出現した。一方で事情、経緯を表す「からです」は2例、「ためです」は1例ずつしか見られなかった。これらは通常の話言葉でよく使われる表現であるが、「からです」「ためです」より「のです」の方が実情を説明する叙述様式説明型として機能するため、公平性を重要視するニュースで好んで使われていると考えられる。

例文 8

さらに貧困層へのばらまきを止め、企業への減税を進めると訴え、現状に不満を持つ人々の支持を集めたのです。

2.2.4 敬語表現

敬語の「られました」が10例も見られるのは、調査対象期間に皇室の結婚式の問題が報じられたため、10例中9例がこのニュースであった。もう1例は別のニュースで天皇陛下が叙勲受章者に「お祝いの言葉を述べられました」ということを伝

える文であった。敬語を使った文末表現は日本の皇室関連のニュース以外には見られなかった。

例文 9

今日の親授式で天皇陛下は、長年努力を重ね、大きな業績を納められ、文化の向上に尽くされたことを誠に喜ばしく思いますとお祝いの言葉を述べられました。

国内外の要人に対しては敬語表現が使われておらず、同じように海外の皇室関係者にも使われていない。これはメディアの慣習であると考えられるが、日本の皇室について馴染みのない日本語学習者に敬語表現の使われ方の範囲を示しておく必要があると考えられる。

2.2.5 名詞文

なお、名詞文の「方針です」は12例「見通しです」は9例見られた。「方針」はN2レベル「見通し」はN1レベルの単語であることから未習語である可能性が高い。他には「様子です」「立場です」「見通しです」「考えです」などが見られたが、一週間の放送を通してそれぞれ1~2例ずつ使われていた。

例 10-1

就労目的の在留資格は、現在大学教授など高度な人材に限られていますが、これを単純労働者を含む分野に拡大する方針です。

例 10-2

政府は公明党の手続きを待って、来月二日に閣議決定をし、国会に提出する方針です。

例 10-3

自国に有利な交渉を進めるため、二国間の貿易協定の締結を目指す方針で、日本との間では来年1月にも貿易協定の締結に向けた交渉を始める見通しです。

「方針です」「見通しです」は出現頻度が高いことから単語の意味と用法を学習者に説

明しておく必要があると考えられる。

以上のように、ニュースで使われる文末表現も、さまざまな規則や傾向のもと使われており、ニュース特有の傾向も学習者への説明の必要があると考えられる。本研究では、特に特徴的で教育への応用が期待できる、ニュースの構成、ニュースでよく使われる文末表現を扱う。

3. ニュース番組の教材化

ニュースには以下のような傾向が見受けられた。

1) 明確な構成があり、リード文と本文に分けられるが、リード文の多くが本文の内容をまとめたものである。リード文で使われた単語は本文の中でも繰り返し使用される傾向があり、先にリード文の単語に注目しておくことで、未習語の推測、内容の理解の助けとなると考えられる。

2) ニュース報道文では受身文がよく使われる傾向がある。引用表現「ということです」は情報源を問わず広く使われているが、一方で「としています」は公的な機関の発表や発言に使われることから出現頻度に差がある。「示しました」は「考え」またはこれに類似した「判断」「意向」「方針」「認識」といった語とともに使われている。「述べました」は公人をはじめ、裁判での被告人陳述、記者会見の発言に使われる。「明らかにしました」も引用文として使われおり「考え」「方針」という単語と共起していた。また、ニュースの中で事情や経緯を説明するときは「のです」が多く使われている。そして、敬語表現は日本の皇室関係者にのみ使われており、国外の要人はこの対象ではないことを学習者に説明する必要があると考えられる。

聴解の授業を行う際に、以下の順番で授業を行う。①ニュースにはリード文と本文があつて、リード文の語句・表現が本文でもよくつかわれることを理解させる。②リード文の重要語句・表現をディクテーションさせる。③ディクテーションした語句・表現の発音と意味を考えさせる。

3.1 リード文の重要単語のディクテーション

リード文をディクテーションする際に使用するワークシートを作成した。ここではニュースの冒頭で伝えられた内容から本文の理解にとって重要な単語を10個ほど選び、まずキーワードの発音と意味について考えさせる。音声の聞き取りはクラス全体

で行うが、ワークシートへの記入は学習者が各自で行う。その際、最初から漢字で書く必要はなく、まず音を聞き、知っている漢字があれば書いていくとよいことにする。

教材化の例1 「出発前に基準超のアルコール検出 日航機副操縦士 英で逮捕」
(2018年11月1日放送)

リード	<p>パイロットの① _____ が② _____。</p> <p>③ _____ の直前に④ _____ されました。</p> <p>日本航空の⑤ _____ のパイロットがロンドンで⑥ _____ する前日に大量の酒を飲み、出発前に⑦ _____ の警察の検査で、⑧ _____ を⑨ _____ アルコールが⑩ _____ されたとして④されたことがわかりました。</p>
-----	---

答え	<p>パイロットの①<u>飲酒</u>が②<u>発覚</u>。</p> <p>③<u>離陸</u>の直前に④<u>逮捕</u>されました。</p> <p>日本航空の⑤<u>国際線</u>のパイロットがロンドンで⑥<u>乗務</u>する前日に大量の酒を飲み、出発前に⑦<u>現地</u>の警察の検査で、⑧<u>基準</u>を⑨<u>超える</u>アルコールが⑩<u>検出</u>されたとして逮捕されたことがわかりました。</p>
----	---

これらの単語の意味と漢字を発音から類推させる。教師は学習者が聞き取った単語をまずひらがなで板書し、それを元に前後関係や発音から漢字を考えさせる。単語の意味と漢字を確認した後、リード文からニュースの概要を予想させる。その際、重要語句をなるべく使うように指導する。例1は日本の航空会社のパイロットが飲酒をしたということ、それは日本ではなくロンドンで行われ、逮捕されたのは現地ロンドンの警察によるものであることが重要事項となる。その後本文で「飲酒という漢語が出てくるが、リードで「大量の酒を飲」んだことがわかっていると「飲酒」の意味を推測しやすいことが予想できる。「離陸」や「国際線」「乗務」といった航空関係の単語は前後の文の意味と音から考えさせることができる。このようにニュースの本文の理解に役立つ単語を本文で使用されている単語と照らし合わせて事前に抽出しておくことが必要である。次にニュース全体の聞き取りを行っていく。一度ニュースを全部聞かせ、おおよその内容を把握してから細かく聞き取りを行っていくと実際のニュース

での報道の順番と同じであることから学習者の意欲を削ぐ恐れがないと思われる。

リード文にはニュースの内容を全て説明していないものもあり、そのようなリード文を聞かせるときは単語の選択が重要になる。以下はその例である。

教材化の例2「教員の長時間勤務 是正 新たな方針」(2019年1月25日放送)

リード	<p>今や、① _____ 学校とさえ言われる② _____ の長時間③ _____ を④ _____ と、国が新たな⑤ _____ を打ち出しました。</p> <p>⑥ _____ 時間に⑦ _____ を設けて、その分⑧ _____ の⑨ _____ を⑩ _____ 、代わりに仕事をしてもらおうというのです。</p> <p>はたして、うまくいくのでしょうか。</p>
-----	---

答え	<p>今や、①<u>ブラック</u>学校とさえ言われる②<u>教員の長時間</u>③<u>勤務</u>を④<u>見直そう</u>と、国が新たな⑤<u>方針</u>を打ち出しました。</p> <p>⑥<u>残業</u>時間に⑦<u>上限</u>を設けて、その分⑧<u>外部</u>の⑨<u>人材</u>を⑩<u>雇って</u>、代わりに仕事を してもらおうというのです。</p> <p>はたして、うまくいくのでしょうか。</p>
----	---

このニュースはリード文が存在していながら、本文で伝えられている内容に直結しないことも含まれている。本文の一部が以下の通りであるが、リード文で使われている単語やその類義語以外にも多くの未習語が使われている。グレーの網掛け部は、その一例である。

本文

M	人口 370 万人の横浜市。
M	中学校でサッカー部 <u>の練習</u> が行われています。
M	教えているのは⑧⑨ <u>外部人材</u> として雇用された部活動指導員です。
M	そのサッカー部の顧問の② <u>教員</u> はこの時間を使って教室で生徒たちの指導をしていました。

「部活動」という単語は日本の学校教育で使われる専門用語で、日本語の授業で教わる可能性は低い。そこでリード文で「教員」という言葉を導入した際に、合わせて教員の職務内容や教育活動などに触れておく必要がある。中学校の教育現場には「部」「部活動」があり「顧問」と呼ばれる立場の教員がそれを「指導」することもあると話し合っておくとよりニュースの流れがつかみやすい。このようにリード文は重要単語の認識と意味の導入のほかに、関連情報を与えることができる。

3.2 文末表現の指導

2.2で述べたようにニュースで使われている文末表現には以下のような傾向が見られた。①受身文がよく使われる。②引用表現の中でも「ということです」は広く使われているが、「としています」は公的な機関の発表や発言である。③「示しました」という引用表現は「考え」とともに使われていることが多いが「判断」「意向」「方針」「認識」といった語とも共起している。④「述べました」は公人の発言に多くみられる。⑤「明らかにしました」は「考え」「方針」とともに使われるほか、引用としても使われる。⑥事情を説明するときは「のです」が多く使われ「からです」という文末表現はあまり使われない。⑦敬語表現は国内の皇室ニュース以外では使われない。学習者にはニュースは報道文という特殊な話し言葉であることを理解させ、ある程度の傾向や法則を知識として提示する必要がある。過去に起こった事柄を単純に述べていくだけではなく、ニュースという公のものである以上は公平性が求められる。また、よく使われる表現は共起する単語とともに紹介しておく、中上級の学習者にとって役に立つと考えられる。

以下の例はニュースでよく使われる引用表現の一部を教材化したものである。上述のように、ニュースという現在起きている事実を客観的に伝える性格上、引用であることを示した表現が多く見られたことから、学習者には事前に意味の確認と実際の使用例を示しておく。

文末表現の教材化の例1 引用表現「ということです」

- ① ということです（政府や警察などからの情報や記者が調べて聞いたことを伝える）
 例文：大使館によりますと、日本人の搭乗客はいないということです。
 こちらの衣料品店では、当日の売り上げは毎年通常に比べて、半分ほどに落ち込む
ということです。

教材化の例1の「ということです」は公的機関から発表された情報や、記者が取材して聞いた内容であることを示していることが多い。公式の発表である場合は「によりますと」と共起することを説明しておくこと、情報源を把握しやすい。政府関係機関であるとその名称が長く難しい場合が多く聞き取りが難しいため、学習者には「によりますと」の前が情報元であることだけを理解しておけばよいと指導する。

文末表現の教材化の例2 引用表現「を示しました」

- ② N（考え・見方・判断・意向・方針・認識）を示しました（ある人、機関の考えを伝える）
 例文：韓国政府は日韓関係を悪化させることは避けたいという考えを示しました。
 最高裁は個人の請求権は消滅していないという判断を示しました。
 作業チームは今日の会合で通知はせずに本人からの申請を求めていく方針を示しました。

例2は共起する名詞にある程度の傾向が見られたため、これらを紹介し実際の使用例を考えておく。「判断」「意向」「方針」「認識」という単語は中上級の学習者にとっては難易度の高いものであるため、事前に意味の確認をしておく必要がある。例文の「判断を示しました」は、裁判所の下した判決を述べたものであることを説明し、個人的な見解でないことを説明しておく。「方針を示す」は「作業チーム」がこれからのようなことを予定しているかを表したもので、決定事項ではないことを伝えておく。

文末表現の教材化の例3 引用表現「としています」

- ③ としています（公的な発表、公式の意見を伝える）
 例文：日本政府は1965年の国交正常化の際に解決済みだとしています。

③は①よりも使用例が少なかったが、ある立場から公式な発表や意見の陳述が行われたことを伝える際に見られ、個人での使用はほとんどなく、ある程度の規模の機関からの情報を伝達するときに使われるため、①②との違いを学習者に明らかにしておく必要があると考えられる。伝聞の文末表現がある際は、聞き取る際にそれが誰の情報なのかを把握しなければならない。その際は同じ文か前の文で情報源を確認することを学習者に指導しておくことが重要であると考えられる。

文末表現の教材化の例2 新しい事実を伝えるときの表現

- | |
|--|
| <p>① ～ことがわかりました（調べたてわかったこと・発表されたこと）
例文：このカメラには危険がある<u>ことがわかりました</u>。</p> <p>② 明らかになりました／しました（それまで知られていなかった情報をはっきりと表す）
例文：〇〇会社は事故の直前に何らかの不具合が見つかり、修理していたことを<u>明らかにしました</u>。</p> |
|--|

例2の①と②は類似表現であるが、「わかりました」が使われるのは当然ながらニュースの伝え手であるキャスターの個人的な見解ではなく、取材した結果判明したことを伝えるときに使われていることを学習者に説明する。②の「明らかになりました／しました」は以前伝えられていた内容に変化が起きた、または以前は知られていなかったことが新たに判明した際に使用されると説明し、このことから②は①よりもこれまでに判明していた事実との対比関係がある可能性が高い表現であることを指導しておく、ニュースの状況が把握しやすい。

文末表現の教材化の例3 よく使われる「名詞+です」の文末表現

- | |
|--|
| <p>① 方針です（これからどのように行動するかを示す）
例文：防衛省は、すみやかに埋め立て工事を再開する<u>方針です</u></p> <p>② 見通しです（これからどのようになるかという予測、または予定）
例文：トランプ政権は日本との間では来年1月にも貿易協定の締結に向けた交渉を始める<u>見通しです</u>。</p> |
|--|

「名詞+です」の文末表現の中で多く見られたのがこの二つである。①はある機関や立場の人が今後どのように行動するかを示したもので、公式に発表された内容であ

るときに使われる。そのため個人的なことではなく、「政府は」「防衛相は」「〇〇国は」といった国際的な政治ニュースに多く見られることを学習者に伝えておくことと話題別によく使われる文末表現の傾向があることを示しやすい。②はある程度予測される出来事に使われていて、ニュースの伝え手であるアナウンサーの個人的な見解ではないことを学習者に説明しておく。これまでの動向から判断するというよりは、すでに決まっていることが伝えられており、中には予定に近いという意味合いで述べていることもあると説明しておく必要がある。

いずれの文末表現も聞き取りの前に予備知識として与えておくこと、ニュース聴解の際に前後関係を意識する手立てとなり、内容の把握につながると考えられる。

4. おわりに

日本語学習者からは「現在起きていることをいち早く理解できるようになりたい」「フォーマルな話し言葉の代表格であるニュースが聞き取れれば、聴解能力が上達したと言えるのではないか」というような意見が聞かれる。しかしニュースは話し言葉でありながら会話文やアカデミックな講義や発表などとは異なり、2.2で述べた通り語句や表現に偏りがある。本稿では扱っていないが、敬語表現がある一定の場面でしか用いられていないなどの報道文独特の特徴を知らなければ聞き取りがより困難になる可能性がある。日本語母語話者にとってもニュースの聞き取りは難しいもので、特に馴染みのない話題は聞き逃して要点がわからなくなってしまう可能性が高い。テレビで放送されているニュースは一度の放送で視聴者に伝えるという役割を担っているため、リード文で重要なことを先に言ってから後で詳細を付け加えるという構成であることを知っておけば、聞き返すことのできない情報を聞き取るのに役に立つのではないだろうか。リード文の構成を使用することで学習者が聞き取る際の助けになることは考えられるが、明確なリード文構成になっていないニュースも存在する。例2のように、一つのニュースについて詳しく説明した後、関連ニュースがリード文なしで続けられることもあった。例2では、沖縄の軍事基地の移設を巡る問題が伝えられたのち、安倍総理大臣が国会でそのことについて触れたと報じ、その後すぐに国会での他のやり取りについて伝えられた。おそらく、1日にいくつもの議題が国会で話し合われるので、そのたびに別のニュース項目を作るのではなく、別のリード文なしのニュースが続けられているものと考えられる。以下の例ではグレーの網掛部に関連ニ

ユースが続いていることを示している。

例2 リード文+背景+詳細+展望・付加+(別のニュースの)背景+展望・付加のニュース

付加1	A	沖縄県の玉城知事は。
付加1	玉城知事	今回の決定は結局のところ結論ありきで中身の無いものであり、自作自演のきわめて不当な決定と言わざるを得ない、と。
付加1	玉城知事	「辺野古に基地は作らせない」という公約の実現に向けて、全身全霊で取り組んでまいります。
付加1	A	玉城知事はこのように述べ、国と地方の争いを調停する国地方係争処理委員会に審査を申し出ることを検討する考えを示しました。
展望1	A	普天間基地をめぐる、今回の国の対応について、安倍総理大臣は、法律に基づいて必要な手続きが行われたとして、尊重すべきだという認識を国会で示しました。
背景2	ナレーターC	衆議院本会議で、二日、代表質問が行われました。
詳細2	公明党斎藤幹事長	家計に対する最大の負担軽減策は、軽減税率制度の実施であります。
詳細2	公明党斎藤幹事長	日常生活の買い物の痛税感は大きく軽減され、景気・経済全体への影響が緩和につながるものと確信しています。

また、リード文といっても、③のように3~4文のやり取りがあるものも見られ、ニュースの概要ではなく、例3のように視聴者にニュースの内容に興味を持たせるのが狙いともとれる導入も見られた。

例3 リード文? (話題の提示)+背景+詳細+展望・付加のリード文

A	さて、平成の時代が終わるまで、あと半年です。
B	携帯電話の普及などで暮らしが大きく変わる一方、甚大な被害をもたらした大災害、社会をゆるがせた事件もありました。
b	天皇陛下は半年後の4月30日に退位され、翌5月1日に皇太子さまが即位されます。
A	平成から新たな時代へ。
A	その節目をどう迎えるのか。
A	さまざまな取り組みが広がっています。

中には例 4-1 や例 4-2 のように、メインキャスターが二人で雑談のようなやり取りをした後に、ニュースの内容に入るようなものも見られた。

例 4-1 雑談から始まるリード文

B	こちらは映画ローマの休日です。
B	なかでも有名なのが真実の口に手を入れるシーンですよ。
A	はい。
A	この真実の口がもし目の前にあったら思わず手を入れてみたくなりませんかでしょうか。
A	そんな気持ちを活用したあるものが、今話題になっているんです。

例 4-2 アナウンサーの動作を伴ったやり取りのリード文

A	続いては。
B	はい、B さん。
A	はい。
B	ラグビーですね。
A	はいそうです。
B	来年 9 月には日本で初めてのワールドカップが開幕しますよね。
A	ですね。
A	で、みなさんこちらをご覧ください。
A	その試合会場ですけれども、全国 12 か所に設けられます。
A	東日本の被災地岩手県釜石市や、決勝が行われる横浜市。
A	そして九州では三つの県が会場になっています。
B	このうち開幕戦が行われる東京では今日、日本代表がテストマッチに臨みました。

例 4-1 では、ニュース本文で「真実の口」の形をした、人間の行動心理を利用した消毒液噴射機の事例を紹介するのであるが、そのリード文では内容に触れることはなく、ただ「真実の口」について聞き、これに手を入れたいかなどどうかを質問している。これは視聴者に共感してもらうことによって、ニュース本文への期待を抱かせる

手法であると考えられる。

例 4-2 ではキャスター同士がラグビーボールをパスしあうという演出も見られた。ニュースキャスター同士がスポーツの実践をするのは例 4-2 以外では見られなかったが、視覚的に珍しい動きを見せることで視聴者の好奇心を高めてから、ニュース本文へ移行する効果が期待されているようである。このように、導入部分でも内容を包括的に説明するわけではなく、その後続くニュースに期待や興味を抱かせるような工夫も時折見られる。

後半の短く伝える時間帯においては例 5 のように、必ずしもリード文が存在するわけではないことがうかがえる。以下の 4 文は一つのニュースであるが、SNS 上に投稿された写真を見せ、それについての説明から始まっている。1 文目がリード文であるかの判断はしにくい、これまで見て来たものと比較しても情報量が少なく、その後続く詳細部や付加情報とのつながりも見えにくい。これらは例 4-1、4-2 と同じように視聴者に注意を喚起してから、内容を詳しく述べている。放送時間内に典型的なニュースが続く中、このような形態も視聴者を飽きさせないための一つの演出ではないかと考えられる。

例 5 リード文が存在しないニュースの全文

背景	A	東京電力がインスタグラムとツイッターの公式アカウントに投稿した写真。
詳細	A	福島第一原発の 4 号機燃料プールという説明とともに、工場萌えというハッシュタグがつけられていました。
付加	A	工場萌えとは、工場の夜景などを鑑賞の対象として楽しむことを表現した言葉で、インターネット上では、不謹慎だとか、このハッシュタグをつける感覚がわからない、といった批判の声が相次ぎました。
付加	A	東京電力は工場萌えというハッシュタグを削除し、不快な思いをさせて申し訳ありませんでした、と謝罪しました。

以上リード文構成になっていない例を取り上げたが、ストレートニュースと異なり 30 分の放送時間の中ではさまざまな演出方法が用いられていることがわかった。このようなニュースは聴解教材としてどのように使用できるか、また指導していくかは今後の課題としたい。

語彙に関してはリード文と本文で重複している傾向が見られるが、類義語や類義表

現に置き換えられていることがある。学習者にはリード文で聞いた単語を使って、それらを類推していく能力も求められるであろう。ニュースの聞き取りを目標とした聴解授業において、上記の特徴を生かすことを考えると、ニュースは最初のリード文、今回分析対象としたような報道番組であれば最初の3文に注目させることが重要であると言える。その際、リード文は画面上に見出しとして文字情報が見られることも多いので、この際に見出し構成語と発音に注目させると理解の助けとなるであろう。本稿では音声の聞き取りを中心にしたため触れていないが、今後はこのような画面上に現れるテロップと呼ばれる文字情報もニュースの理解の助けになることを考察していかなければならない。特にこの20年ぐらいで日本のテレビ番組にとってはテロップの情報が増え、その使用範囲が増加していることが見受けられる。同じことはインターネット上でもいえ、日本語学習者がさまざまな音声とともに文字の情報に触れる機会があることは明白である。本稿はストレートニュースではなく、ニュースショーと呼ばれる30分の報道番組を分析の対象とした。昨今のニュース視聴はテレビに限られずインターネットニュースやSNSで配信されているものなども含まれ、その構成はテレビニュースとは異なると考えられる。日本語学習者が今後耳にする情報は日々変化しており、従来の指導教材だけでは十分ではないこともある。日本語を指導する側として、学習者のニーズとその内容の変化にできる限り対応していくことが求められるであろう。今回の教材化はその一考に過ぎないが、メディアを使用した日本語授業の可能性を探るものである。

付記：本稿は2019年3月、日本語教育方法研究会でポスター発表をした「ニュース報道文の特徴を生かした精聴授業の実践」を加筆修正したものである。

授業の実践については河野多佳子(2019)「テレビニュースの構造の分析に基づくインストラクショナルデザイン」『アメリカカナダ大学連合日本研究センター年報』に詳細を述べた。

注

- 1 「ラジオ・テレビを問わずアナウンサーの読み上げ原稿が中心となるニュース形態を「ストレートニュース」と呼ぶ。一方、客観的報道に加え、解説者、専門家、ジャーナリストらが、自身の主観や意見を述べる報道番組を「ニュースシ

ョー」と呼ぶ。」とされる（星野祐子 2011：234）

参考文献

- 井上裕之（2019）「リード文はなぜ繰り返すのか？－『反復』から読み解く放送ニュースの談話構造－」『NHK 放送文化研究所年報 2019』 Vol.63, pp.239-312
- 金庭久美子（2001）「学習者は TV ニュースをどのように聞いているか－日本語教育における聴解能力の判定－」『横浜国大外国語研究』 Vol.19, pp.69-59
- （2010）「ニュース語彙の特徴分析」『横浜国立大学留学生センター教育研究論集』 Vol.17, pp.65-82
- （2011）「日本語教育における聴解指導に関する研究－ニュース聴解の指導のための言語知識と認認知能力－」『日本アジア研究』 Vol.8, pp.1-31
- 田代ひとみ・中込明子（2002）「語彙の手当てが講義の聴解に及ぼす影響」『日本語教育方法研究会会誌』 Vol.9, No.1, pp.20-21
- 星野裕子（2011）「ラジオ・テレビのニュースの文体」『日本語文章・文体・表現事典』 pp.233-240, 朝倉書店
- 三原千佳（2013）「上級学習者を対象とした『ニュース聴解』の一試案」『大阪大学日本語日本文化教育センター授業研究』 Vol.11, pp.21-29
- メイナード泉子（2005）『談話表現ハンドブック：日本語教育の現場で使える』くろしお出版